

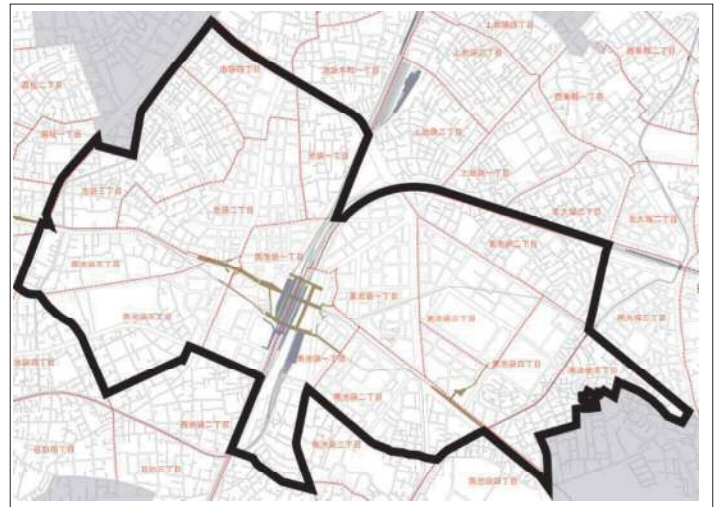
中央地域 [東池袋、南池袋(一部)、西池袋(一部)、池袋]

中央地域は、人口約5万2千人、約3万6千世帯が暮らしています。一日262万人の乗降客がある日本有数のターミナル駅池袋を中心に、東京の副都心として、また、豊島区を中心として、商業、業務、文化の施設や機能が集積しています。

東京芸術劇場や個性的な劇場が集積する区内でも有数の劇場密集地であり、池袋副都心は「演劇のまち」としての特徴も持っています。区立劇場「あうるすぽっと」は、質の高い劇場として高く評価され、区内外から多くの来館者を迎える中央図書館とともに、池袋の文化発信拠点となっています。また、赤レンガに蔦の絡まる風格ある立教大学や帝京平成大学など数多くの教育機関が立地するまちでもあります。さらに、23年9月策定の交通戦略により、駅周辺でひとが主役となる都市への転換を目指す動きが始まり、庁舎跡地周辺及び池袋西口駅前まちづくり、東西デッキの整備、LRT構想など、池袋副都心は大きく生まれ変わりつつあります。

国際アート・カルチャー都市を牽引する庁舎跡地活用事業は、28年3月に開発事業者と庁舎及び公会堂跡地の定期借地契約を締結し、着々と工事が進んでいます。平成29年3月には、エリア名を多くの応募から「Hareza（ハレザ）池袋」に決定しました。シネマコンプレックスを擁するオフィス棟とともに、芸術文化劇場、としま区民センターの2つのホールなど「8つの劇場」を整備し、女性や子ども連れの来街者にやさしい大規模なパブリックトイレや子育て支援スペース、多言語対応のインフォメーション機能等を整備します。さらに、平成31年秋には、庁舎跡地周辺のにぎわい拠点となる中池袋公園と西口エリアの新たな顔となる池袋西口公園がリニューアルオープンし、池袋駅周辺の公園など区内観光スポットを回遊する電気バスを運行します。平成32年春に誕生する（仮称）造幣局地区防災公園は、新たな防災拠点となるほか、老朽化した池袋保健所の仮移転先にもなります。平成29年4月には、産業振興を図る拠点施設として、「IKE・Biz」（としま産業振興プラザ、旧勤労福祉会館）がリニューアルオープンしたほか、平成30年3月に、鈴木信太郎記念館が開館しました。

多くの人々が住む副都心、駅を中心としたコンパクトな姿、サンシャインシティやみどり豊かなグリーン大通りなどの特徴を活かし、池袋駅の東西南北の一体性を重視しながら、都市計画道路の着実な整備や大震災への備えなどを進めます。安全・安心に文化を楽しめる人間優先のまちづくりと、豊島区の芸術・文化を世界に向けて発信し続ける魅力と活力にあふれた「国際アート・カルチャー都市」をめざすことで、独自の個性と存在感を発揮するまちに成長させていきます。

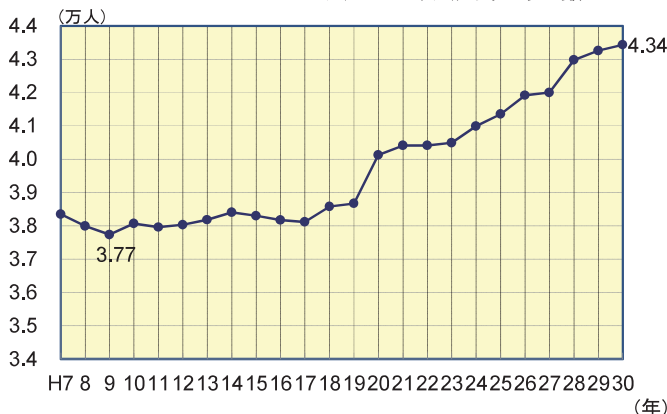


1	面積	270.1 ha
2	人口	52,273 人
3	人口密度	194 人/ha
4	14歳以下の人口の割合	7.0 %
5	65歳以上の人口の割合	16.8 %
6	外国人人口の割合	16.9 %
7	一般世帯数	35,562 世帯
8	ファミリー世帯の割合	21.2 %
9	単独世帯の割合	63.4 %
10	建築物の耐火率	83.3 %
11	一人あたりの公園面積	0.94 m ²
12	緑被率	8.8 %

- 【2～6】 住民基本台帳〔日本人住民及び外国人住民〕（平成30年1月）
- 【7～9】 国勢調査（平成27年）
- 【10】 土地利用現況調査（平成23年）
- 【11】 公園・児童遊園現況一覧（平成29年4月）
- 住民基本台帳〔日本人住民及び外国人住民〕（平成30年1月）
- 【12】 緑被現況調査（平成28年）

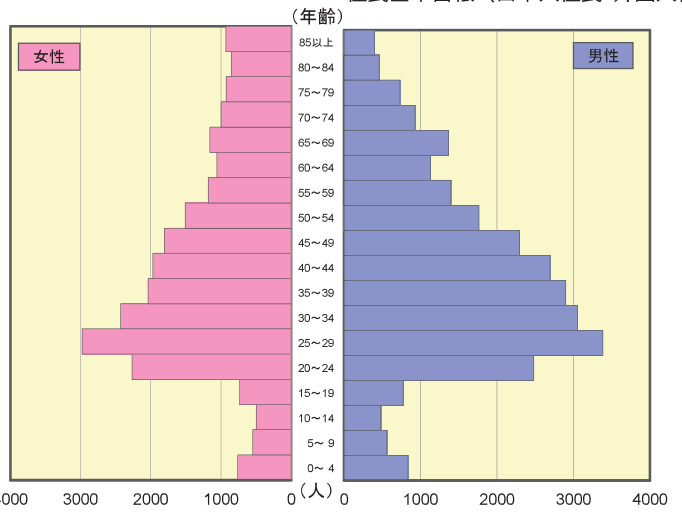
人口の推移

※人口は日本人住民のみの数



人口の年齢構成 (平成30年1月)

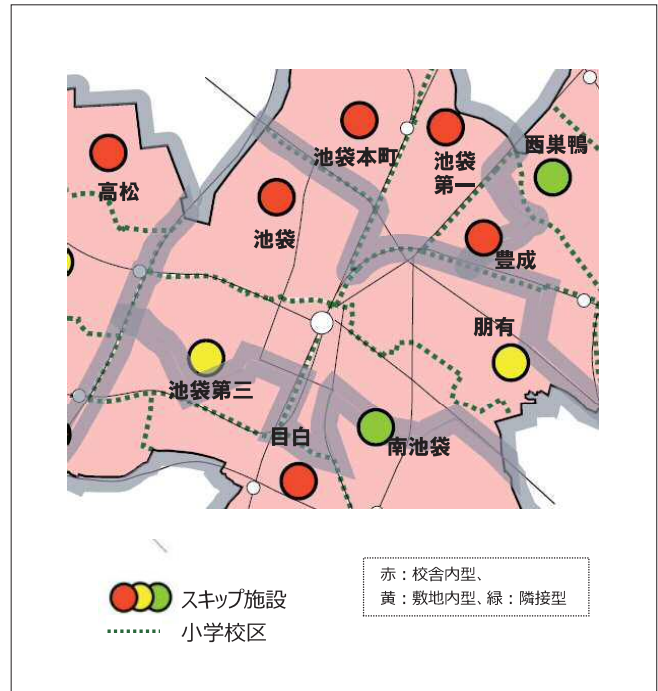
住民基本台帳 (日本人住民・外国人住民)



地域区民ひろばの展開状況

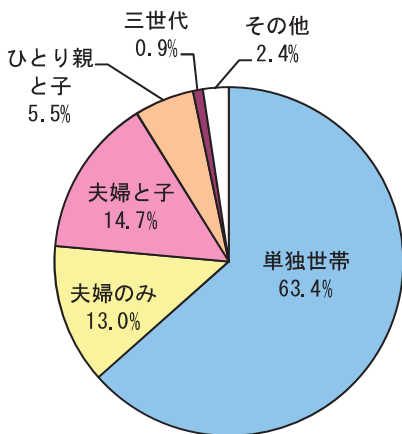


子どもスキップの展開状況

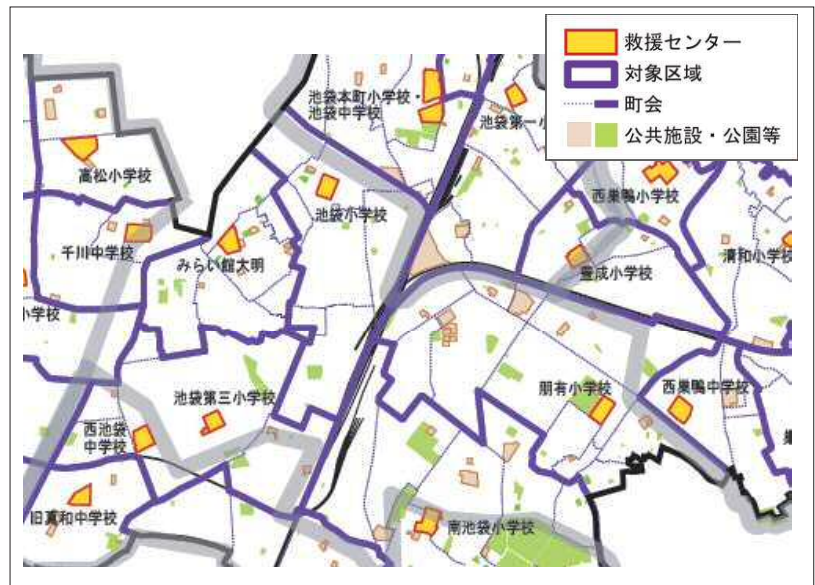


世帯の状況 (平成27年10月)

国勢調査

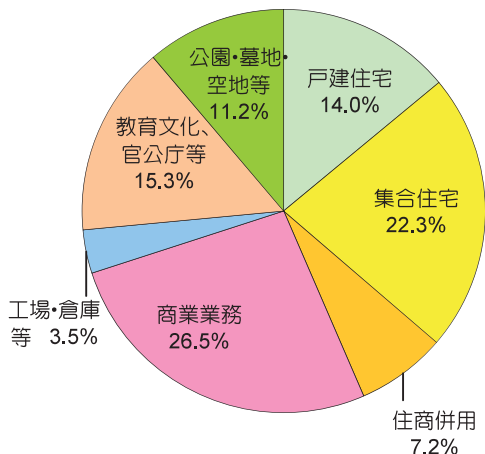


救援センターと対象区域



土地利用の状況 (平成23年)

土地利用現況調査 (豊島区)



用途別・建物床面積の変化

用途別構造別土地利用データ (東京都主税局資料)

